

○ 調査問題

2 文章を読んで、次の問いに答えなさい。

夏の夜のことです。
父の運転する車で、私たちは静まり返った夜の砂浜に①やってきました。降り注ぐ月の光を受けて、波がゆらゆらと銀色に輝いていました。私も弟もいつもならばとっくに寝ている時間でしたが、「今夜、ウミガメの産卵が見られるかもしれない」と思うと、わくわくしてちっとも眠くありませんでした。

月の光で、
明るい、

(2) 右の文章中の①やってきましたに対する主語を書き抜きなさい。

○ 調査問題の趣旨・内容

「文の構成を理解する力が身に付いているかどうか」をみる問題

【問題内容】 一文の中で述語に対する主語を文中から書き抜く。

【作成の趣旨】 この問題は主語と述語の関係を正しくとらえ、文の構成を理解する力が身に付いているかどうかを見る問題である。この問題のポイントは、一文の中から述語に対する主語を探し、正しく記述することである。また同時に主語・述語・修飾語の特質を正しく見分ける力が求められる。

○ 誤答分析

解答類型 出題のねらい	①正答 私たちは	2 私たち	無回答	その他	③その他に含まれる 「頻出の誤答例」
一文の中で述語に対する主語を文中から書き抜く	30.8%	3.5%	3.6%	62.1%	「砂浜に」 (25%) 「夜の砂浜」 (16%) 「砂浜」 (9%)

○ 誤答例が多かったのは「砂浜に」が25%、次に「夜の砂浜」が16%、続いて「砂浜」が9%であった。直前にある言葉の「砂浜」という言葉を主語として捉えている児童が非常に多いことが分かる。

○ 「砂浜に」(どこ)に「やってきた」(どうした)と、文がつながるかどうかのみ考えていることから、「〇〇が」「〇〇は」(主語)「どうした・どんなだ」(述語)の関係を正しく理解することが不十分であると考えられる。

○ 主語や述語の学習は小学校の早い段階で学習する。そのため、特に小学校高学年以上は、文章

○ 指導上のポイント

主語・述語・修飾語等の関係を理解させる学習活動例

【述語から主人公を探す！】

① 母は スーパーで 飲み物を 買う。



母は

ポイント 述語から「主人公」となる主語を見付けさせる。児童がイメージしやすい文を用いる。

○ 主語が分かりやすい基本的な文を示して、児童に考えさせる。さらに、児童に問題を作らせたり、複数の文を主語・述語・修飾語等の仲間に分けたりする学習を行うことで、それぞれの特徴を理解させる。

② (A) が (B) で (C) を 買う。 (A) が (B) で (C) を に入れる言葉を考える。

ポイント (B) で や (C) をの部分
が修飾語であることを押さえ、言葉を
考えて交流するゲームをする。

○ キーワードゲームを用いて日常的な文をつくり、親しみやすさ・楽しさを感じさせる。
ステップ・アップとして、例文を考える際に修飾語を増やしたり児童に作文をさせてペアで説明を行ったりする。

主語・述語・修飾語等を分類し、構成を考えさせる学習活動例

- ① 例文を、主語・述語・修飾語等に分け、その理由をグループで話し合う。
 - ② 全体で発表しながら、分け方の理由について考える。
 - ③ 物語文等から文章を抜き出して主語・述語・修飾語クイズ大会を開き、様々な文例に触れながら構成を考えさせる。
- ◎ 物語や説明文の学習時においても「この修飾語は、どの言葉に係るか」「この述語の主語は何か」等、主語、述語、修飾語を意識して、関係性を確実におさえるようにする。

○ 復習シート・コバトン問題集の活用

③ 日本で一番高い山は、富士山だ。

【文の型】

ア 何は(が) 何だ

イ 何は(が) どうした

ウ 何は(が) なんだ

(平成二十七年全国学力・学習状況調査)

○ 次の文は、あとの【文の型】のアイ・ウのどの型に当たりますか。適切なものをそれぞれ一つ選んで、その記号を書きましょう。 レベル7～9

① 私は、国語の学習で意見文を書いた。

② この窓から見える景色は、すばらしい。

【出典】
復習シート
中1・国語
文法

○ 調査問題

9 次の文の——線部を適切な敬語表現に直して書きなさい。

私たちは、昨日埼玉県から

いらっしやいました。

○ 調査問題の趣旨・内容

「敬語を正しく理解し、正しく使う」問題

【問題内容】 文中の敬語を適切な形に直す。

【作成の趣旨】 この問題は敬語の特質を正しく理解し、場面に応じて正しく使うことができるかを見る問題である。この問題で使われている敬語自体は正しいが、話し手と聞き手の関係をふまえると、この場面では不適切な使い方になるということに気付くことが重要であり、敬語を使う場面を想定して判断する力が求められる。

○ 誤答分析

解答類型 出題のねらい	①正答 参りました	2 参った	無回答	その他	その他に含まれる 「頻出の誤答例」
敬語を理解し、正しく使う。	62.8%	0.2%	5.7%	31.3%	こられました (20%) いらっしやった (14%) いらしました (8%) おこしになりました (8%)

○ 正答率は62.8%であり、難易度は低めの問題であるが、その他の解答をした生徒が31.5%と、他の設問より比較的多い。

○ ③の「頻出の誤答例」を見るとほとんどが尊敬語を使っており、「こられました」という答えが20%になるなど、「私たち」に尊敬語を使うことが誤りであることに気付いていない可能性が高い。

○ 指導上のポイント

敬語を「知る」から「使う」へ

敬語の種類や意味を知ることが大変重要であるが、知ることは目的ではなく手段である。知識を蓄え、敬語を使いたい場面に気付き、子どもたちが適切な敬語を使うことができるようにするために、敬語の元の形（どんな動詞か）を知り、状況に合わせ尊敬語を使うか謙讓語を使うかを選択できる力を身につけさせたい。

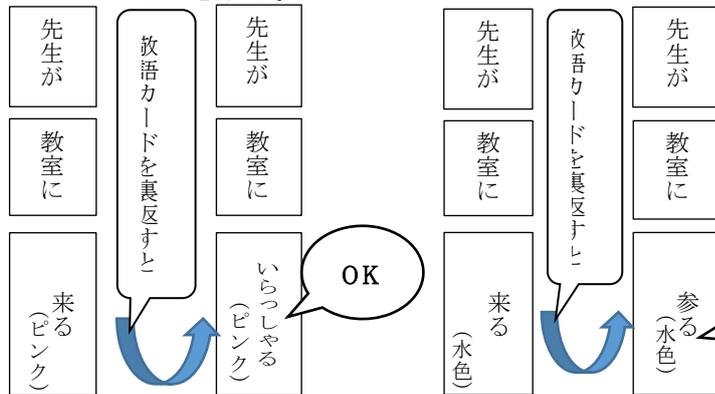
確認させたい基本事項

○動作主（主語）に敬意を払う→尊敬語 ○動作の受け手に敬意を払う→謙讓語

【学習活動例】

敬語カードパズルで、使い方を覚えよう！

表には「いらっしゃる」、裏には「来る」のように、表に書いた敬語が示す動作を裏に書いたカードを作る。尊敬語はピンク、謙讓語は水色のように、カードの色を（表裏とも）変えて視覚的に敬語の種類を見分けられるようにする。「先生が教室に来る」などの文章が作れるように、敬語以外のカードも用意する。



①カードを並べて文章を作る。敬語カードは裏にしたまま並べ、カードの色で尊敬語か謙讓語かを選ぶ。

②敬語カードを表に返し、使った敬語カードの種類が正しいかどうか、考えてみる。（尊敬か、謙讓か）

3～4人のグループで行い、選んだ敬語カードが正しくない場合は、その理由を話し合わせたい。話し合いの中で、敬語の使い方のきまりに、自分たちで気付くように活動させていく。

敬語の基本ルール

- ☆「尊敬語」では、動作主が敬意を払う相手
- ☆「謙讓語」では、動作の受け手が敬意を払う相手
- ☆自分や身内に対しては敬意を払わない。

※自分が主語→尊敬語× 尊敬する人が主語→謙讓語×

○ 復習シート・コバトン問題集の活用

- 【敬語の種類と正しい使い方を理解する問題】
- 9 文中の□の中に入る敬語として最も適切なものを、1～4の中から選び、番号に○をつけましょう。 レベル7
- 先生、これは母の手作りのケーキです。どうぞ、□。
- 1 いただいでください。
 - 2 めしあがってください。
 - 3 おっしゃってください。
 - 4 いらっしゃってください。
- （平成二十五年 度）
全国学力・学習状況調査

【出典】
復習シート
三年生・国語
9 敬語の種類と正しい使い方を理解する問題

○ 調査問題

12

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

やむごとなき人のもとに、新しくつかうまつる侍さむらい出いで来にけり。焼き絵をめでたくするよし、聞こえければ、侍を呼びて、紙に焼き絵をせさせけるに、何をか焼きはべるべきと言ひければ、水に鴛鴦をしを焼をけと言はれるに、うちうなづきて、水には鴛鴦をいかが焼くべきと口ずさみけるを、あるじ、聞きとがめて、同じくは一首になせと言はれければ、かしこまりて、浪なみの打つ岩より火をば出だすともと言へりければ、人々皆ほめにけり。

(1) 言へりければとありますが、この部分を現代仮名遣いに直し、全てひらがなで書きなさい。

○ 調査問題の趣旨・内容

「文語（歴史的仮名遣い）を理解する」問題

【問題内容】 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して書く。

【作成の趣旨】 この問題は、古文を理解する上で必要不可欠な歴史的仮名遣いについての知識がどの程度定着しているかをみる問題である。歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して書く問題は、高校入試にもよく出題されており、確実に定着を図りたい問題である。

○ 誤答分析

解答類型 出題のねらい	正答	無解答	その他	その他に含まれる 「頻出の誤答例」
	文語（歴史的仮名遣い）を理解する	49.8%	6.5%	

○ 正答率は49.8%であり、約半数の生徒が誤答を選んでいる。

○ 誤答のうち「いいければ」が誤答全体の28%と最も多く、次いで「いいりければ」「いえば」がともに9%である。これらの誤答の主な原因は、歴史的仮名遣いに対する理解が十分でないことや、

○ 指導上のポイント

音読を通して、歴史的仮名遣いへの理解を深めさせる指導

◇歴史的仮名遣いを意識させる音読（1行空きで古文を印刷した教材を用意）

- ①教師による範読を聞きながら、表記と発音が違うところを探して発表させる。
 - ②歴史的仮名遣いを読むときの原則をペアで考えて発表させる。
 - ③読み方の原則を整理する。発音の変化について説明し、発音と表記を一致させた「現代仮名遣い」を理解させる。
 - ④歴史的仮名遣いを赤○で囲み、その横に現代仮名遣いを書き込ませる。
 - ⑤歴史的仮名遣いの読み方の原則を意識しながら、繰り返し音読させる。
- ※機械的に読み方の原則を教え込むのではなく、生徒に課題意識をもたせて音読させたい。

「主体的・協働的な学び」

ありけり。野山にまじりて、竹を
今は昔、竹取の翁といふもの

◇古文の「同時通訳」

①教師と生徒で

「同時通訳」の要領で古文と現代語訳を一文ずつ交互に音読する。慣れてくれば、現代語訳から古文に直したり、文の途中（で区切ったところ）までも訳したりできるようになる。

②生徒同士で

ペアを組み、交替して「同時通訳」による音読をする。
課題を出して（例：ペアで交替して○セット読む）速さを競わせる等、楽しみながら数多く音読できるように工夫する。

古文、現代語訳どちらもすらすら読めるようになれば
次の二つの違いを明確に実感させることができる。



今は昔



今となつては昔のことだが



- ・現代仮名遣い→現代の読み方（発音）をあらわしたもの
- ・現代語訳→現代語に訳したもの

また、これらの二つを各学年の古典の授業で、常に並べて提示し、その違いを確認させることで、知識の定着を図ることができる。

○ 復習シート・コバトン問題集の活用

レベル8

12.

次は、「ふるさと」の歌詞の一部です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

ふるさと
うさぎ追ひしかの山
小ぶな釣りしかの川
夢は今もめぐりて
忘れがたきふるさと

——歌詞「追ひし」を現代仮名遣いに直し、全てひらがなで書きなさい。

①

②

（1）——線部①「向かふ」②「思はむぞ」を、全てひらがなで、現代仮名遣いにかきなさい。

ある人、弓射ることを普ふに、諸矢をばさみて、的に向かふ。師の言はく「初心の人、二つの矢を持つことなけれ。後の矢を頼みて、初めの矢になほさりの心あり。毎度、ただ、得失なく、この一矢に定むべし思へ。」と言ふ。わづかに二つの矢、師の前にて、「一をおろかかせんと思はんや、懈怠の心みづから知らずといへども、聞、これを知る。この戒め、万事わたるべし。」

7. 古文の内容を読み取り、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題。次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

4. 「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し書く問題」

レベル7・9

【出典】
復習シート
2年生・国語4
3年生・国語7
(1)
確かめプリント